

事業所名		社会福祉法人未来 児童発達支援事業所 発達支援のへや こどもの里				公表日	2025年3月5日
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点		
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	4	2		・相談室はあるが一部屋しかない為、検査や報告が重なるため療育の子どもたちが落ち着かなくなり1対1で向き合うことが難しいので、こどもの里以外にも使用できる部屋があると思う。	
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	3	3	・その子、その場にあった対応ができるよう連携を取り合って対応をしている。 ・担当制にしたことで担当児童の状態について理解が徐々に深まってきたように感じる	・利用児童が多く、全員の状態を把握するのは難しい。 ・子ども一人ひとりについての職員同士の話し合いの時間が持てておらず、職員の人数に対して子どもの人数が多いと感じる。こどもの里の強みは、個別対応だと思うので、一人ずつのような支援が必要かを考えられる療育を行えるようにしていきたい。	
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	6	0	・導線がわかりやすいよう、環境を構成している。 ・子どもが遊びを選択し、集中できるよう、遊びごとにコーナーを分けている。		
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	6	0	・生活としての環境、発達を促すための環境、子どもにとって安心な環境となるよう職員間で話し合いをして見直し、工夫ができています。		
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	4	2	・活動によって、相談室を利用し、個別対応ができるようにしている。		
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	5	1	・毎月会議を行うことにより目標と意図を共に考えて活動を考えることが出来るようになった。振り返りもできるからこそ次の活動に生かすことが出来る。	・会議の場などで、個々に意見や考えを持ち寄り、互いに言い合い、より質の高い支援が行えるようにしていきたい。	
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	6	0	・保護者アンケートや面談での保護者からの言葉で保育者自身もやりがいを感じる事ができる。		
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	6	0	月一回、会議の場を設けている。会議を行うことにより話し合いの場がもてるようになったことで、意見交換ができたり、お互いに知識を出し合うことができ刺激になる。		
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	6	0			
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	6	0		・機会があれば参加し、知識を深めるためにもっと学びたい気持ちがある。通常業務に精一杯になりがちなので、学びの時間の確保にも努めていきたい。	
	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	6	0			
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	6	0			
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	6	0			
	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	6	0	・今年度から、HUGの活用により、日々の振り返りを支援計画に沿って記録していった。日頃から支援計画を目的とすることで、必要な支援ができるように意識を持って関わることができた。	利用人数が多く把握しきれっていない部分がある。広く浅くになりがちだったが、ある程度担当制にすることでそこが改善されつつある。	
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	5	1		・観察評価は日々行っているが、標準化された客観的評価はあまり活用できていないため今後活用できるように努めていきたい。	

適切な支援の提供	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	6	0		
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	6	0		
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	6	0	・季節のもの、感触遊び、運動遊びなど新しい内容の活動を取り入れたり、昨年度までの内容を振り返り、自信を持って活動に参加できる機会を作ったりして、固定化しないように心掛けている。	
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	6	0	・個別での活動が主であるが、個別だからこそ、その場に応じて集団での遊びも展開できると思う。また、年に2度おたのしみデーの開催もあり、小集団での活動も展開している。	
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	2	4	・毎月の会議での話し合い、手順をまとめた書類を掲示し確認する等、行っている	・打ち合わせを行う時間の確保が難しい。一週間の活動やスケジュールが一目で見てわかるように、週間ボードや週報などを活用していきたい。 ・時間的要因などにより職員全員での打ち合わせは行えていない。 ・報連相は意識しているが、連絡漏れもあるため改善が必要だと感じている。
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	1	5	・月一回の会議で振り返りを行い、職員で話し合っている。 ・サービス提供記録を入力し、職員が各自必要な時に閲覧している。	・時間的要因により、職員全員で振り返りは難しい。 ・毎日の打ち合わせは難しい。必要に応じて、情報はその都度共有している。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	5	1		・記録をとることはできているが、支援の検証、改善にまでは至っていないと感じる。
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	6	0		
関係機関や保護者との連携	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	6	0		
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	6	0		
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	6	0		
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	6	0		
	28	(28～30は、センターのみ回答) 地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。				
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。				
	30	(自立支援)協議会子ども部会や地域子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。				
	31	(31は、事業所のみ回答) 地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。	4	2		
32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。	5	1	・掛川こども園内にあることで、分け隔てなく生活することができる。		

	33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達状況や課題について共通理解を持っているか。	6	0	・外部園の保護者は送迎時にその日の様子をリアルタイムで伝える事ができている。 ・自園の保護者には、面談時に担当から日々の様子を伝えている。	
	34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	3	3		・なないろの会で外部講師を招き、おもちゃの紹介やメディアについての研修を実施した。仕事のため参加率が低い。内容はおたよりにまとめて、参加できなかった保護者に配布している。
保護者への説明等	35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	6	0		
	36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	6	0		・面談を定期的に行うことで実現できている。面談がなかなかできない家庭への対応は今後の課題例えば土曜日に面談を受け入れられる体制を作る等
	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	6	0		
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	6	0		
	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	6	0	・なごみの会は毎年参加率が高く、就学に向けて卒園児の保護者と交流できる機会となっている。	
	40	こどもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	6	0		
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	6	0	・月一回おたよりで活動内容を配布している。	・次年度からは写真を掲載し、子どもたちの様子や里での取り組みがわかるように作成、発行していきたいと考えている。HPの活用も検討する。
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	6	0		
	43	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	6	0	・子どもや保護者に寄り添った支援を心掛けている。伝達もわかりやすく丁寧に心掛けている。	
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	2	4		・施設的に個人情報・プライバシーを守るべき立場にあるため、オープンにしにくいのが、こういう施設があり困った時に相談できるという情報は出せていると思う。HP開設により更に身近になっていくといい。
非常時等の対応	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	4	2		・マニュアル作成はされているが家族等に周知は不十分だと感じる部分がある。
	46	業務継続計画(BCP)を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	5	1		
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	6	0		
	48	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	5	1		
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	5	1		
	50	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	3	3		・職員間では安全確保に努めているが、避難訓練に参加していること以外、保護者への周知までには至っていない。
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	6	0	・事業所内だけでなく、掛川こども園と一緒に情報を共有し、再発防止に努めている。	
52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	6	0			

	53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	4	2		事業所において該当する事案が今現在ない。
--	----	--	---	---	--	----------------------